


退職者 NO.98

こだま会報



「消費税増税ノ一」 「脱原発」へ力をあわせよう



「収穫」(川瀬秀雄さんの作品)

目次

- ・表紙写真／コラム散歩道 ①
- ・手作り文化祭／お勧めの1冊／県職員9条の会「平和の集い」... ②
- ・こだま俳壇／小出川彼岸花散策／予告 ③
- ・会員紹介(米山東伊さん) ④
- ・「神奈川臨調」を考えよう ⑤
- ・全国自治体退職者会連絡会総会／神奈フィル争議支援 ⑥
- ・神奈川自治労連退職者会総会／高齢期運動全国大会 ⑦
- ・絵手紙・葉書絵／映画随想／タケちゃんの料理教室 ⑧

溷沢までの登り道、ナナカマドやその他の紅葉の向こうに見える澄み切った青空と、雪をかぶった北アルプスの峰々。山の紅葉は、登るご

溷沢の紅葉に魅せられて

虻川 弘子



高いところにある溷沢へは行けなくなつたが、梓川の流れの音を聴きながら、はるかな穂高をながめ、樹木の下を歩くのは、夫が3年前あの世へ行き、私だけになつても、心が豊かになるひとときとなつて

の山登りは毎年続いたが、7年前下山時にバランスを崩して尻もちをつき、左手足に軽い怪我をしてからは山登りはやめ、横尾までの広い道での歩きだけになつた。

「素晴らしー！」と思つたのは、北アルプス穂高の登り口にある溷沢までの登山道の紅葉だった。溷沢へは、上高地から横尾まで歩き、そこから休憩所も山小屋もない細い山道を、私の場合、6時間かけて登り、下りは膝を痛めているので、7時間かけてゆっくり

10月の連休のころ、3泊4日の夫との溷沢への山登りは、7年前下山時にバランスを崩して尻もちをつき、左手足に軽い怪我をしてからは山登りはやめ、横尾までの広い道での歩きだけになつた。

※会員の皆様へお願い...住所を変更された時は事務局までご一報を。



▲アンコールの声もでて盛り上がったフラダンス

神奈川自治労連退職者会

絵画・写真・絵手紙・
手芸・吊るし雛・俳句・
書道など 力作ぞろい

第18回
ふれあい
手作り
文化祭

合唱や 踊りで交流



▶写真や絵画、吊るし雛など力作ぞろい

神奈川県自治労連退職者会主催の「第18回ふれあい手作り文化祭」が10月27日、横浜市従会館で盛大に開かれました。展示コーナーには、切り絵や写真、絵手紙、絵画、手芸、俳句、短歌、書道など、この1年間のサークルや愛好会の作品が飾られ、皆、食い入るように鑑賞していました。

こだま会会員の出展は、絵画4人、水墨画1人、写真2人、俳句14人、絵手紙3人、葉書絵芸2人、吊るし雛1人、紙工作1人、演芸8人と昨年を大きく上回りました。演芸会場の舞台では、歌や踊りな



▲俳句コーナー



▲居合いを披露する稲本春雄さん



▲唄を披露する叶井進一さん

県職員九条の会7周年平和のつどい 「憲法をめぐる情勢はいま」

とき 12月1日(土) 14時~16時30分
ところ 横浜市開港記念会館 2階6号室
講師 小森 陽一氏
(九条の会事務局長・東京大学教授)
資料代 500円
主催 神奈川県職員九条の会
申込先 Eメール:kensyokuin9@kensyokuin9.sakura.ne.jp
FAX: 045-363-6397 (佐伯方)
携帯電話: 070-6107-1594 (鳥居)

どが次々と披露。合唱もあり、フィナーレは『阿波踊り』。テーブルには交流の輪。まさに「ふれあい手作り文化祭」でした。(鳥海敏雄)

それに対し村はどう対処したか。これまでどう村づくりをしてきたか。いのちと健康を守り、土と結びついたなりわいを守りたい、それに住民がどう対応し、県や国がどう応えたのか、応えなかったのか。まさに、一人ひとりの苦闘の物語であり、行政と住民との協働とはどういうことか、考えさせられる一冊である。(新井通子)



山間部に位置し、東日本震災では、地震・津波

飯館村は、福島県の北西部にある人口6000人余りの小さな村であるが、若い女性を勉強のためヨーロッパに行かせる「若妻の翼」という事業を始めたことでも有名である。

この村は、平成の市町村合併の動きのなかで自立の道を選び、住民の自治能力と行政との協働で、村づくりを進めてきた。

『飯館村は負けない』
—土と人の未来のために—
千葉悦子・松野光伸著 岩波書店刊

800円+税

おすすめの1冊



こだま俳壇 (10月)

この地にも義民の碑あり秋あかね

田中 一男

紫蘇の実のしごけば在りし母見える

島田多嘉子

秋色のひとつとなりて山歩く

坂 守

空の青引きつけてゐる曼珠沙華

鳥海 敏雄

満月や嵐の跡を照らしゆく

中村 桂子

コスモスや今日一日の生きる幸

鈴木志げ子

秋茜帽子に付けて蔵巡り

松尾佐知子

突風に鴉流され神無月

木村 武子

声明の響き渡りし秋の夕

三井 光子

白萩や大逆事件刑死の碑

小川 水草

掛布団の温さにひたる神無月

白井保次郎

三歳児脇目も振らず神無月

松本 正治

倒木に山雀集ふ湖畔かな

井村 友彦

供へもの盗る子来たららず月祭る

太田 土男

予告!! 予告!! 予告!!

- 俳句サークル「こだま句会」
月例会 (毎月第2木曜日13時~)
12月13日 1月10日 2月14日
ところ 県庁本庁舎 6階共用会議室
指 導 太田土男先生 (俳人協会)
会 費 500円
申込先 こだま会事務所045(212)3179
または井村友彦0463(81)4493
- 囲碁同好会
月例会 (毎月第1日曜日12時から)
場 所 「囲碁サロン」JR藤沢駅南口そば
申込先 こだま会事務所045(212)3179
または青沼慶祐080(1266)5396
- 食文化を楽しむ会 (薬膳料理)
と き 12月6日 (木) 11時~
ところ 横浜市健康福祉センター調理
実習室 (JR桜木町駅前)
テーマ 風邪予防の薬膳料理
会 費 1800円
講 師 亀井禎子会員
持 参 エプロン・タオル・三角巾
申込先 こだま会事務所045(212)3179
または山本文子03(3728)2227
- 楽しい料理教室
と き 1月26日 (土) 11時~15時
ところ 「男女共同参画センター横浜南
フォーラム南太田」2階生活工房
(京急「南太田駅」下車徒歩4分)
参加費 2000円
持 参 エプロン・タオル・三角巾
内 容 アジの中華アンカケほか
申込先 こだま会事務所045(212)3179

藤沢市北部の遠藤地区に流れる小出川沿いに3キロにわたる群生する彼岸花ロード



▲スタート地点で記念撮影



▶カカシも歓迎



満喫しました小出川の彼岸花ロード

川岸の右に左に彼岸花
彼岸花空の青さに吸い込まれ
彼岸花見ながら一服野点席

晴天に恵まれた9月29日(土)、
こだま会・てくテクの会の11人の仲
間と、小出川彼岸花観賞に参加しま

した。

川岸に一面の彼岸花の光景は、久しぶりに見た気がしました。彼岸花はまだ蕾もあり、白花もあって、観賞しながらのウォーキングは楽しかったです。

ちょうど「小出川彼岸花祭り」の時でもあり、テント小屋に出店もあり、賑やかさを増していました。また、野点もあり、彼岸花を観ながらの一服は、何よりでした。

昼食は、県立茅ヶ崎里山公園の古民家で、冷たい水のサービスを受けながら、持参したお弁当を食べました。

帰路は、里山公園を通り抜け、バス停に向かいました。「もう少し歩けるかな」という気もしましたが、楽しみながらのウォーキングは、健康の力になると思えました。

(島田多嘉子)



-35-

雪深い新潟の山村に生まれ

私の故郷は新

潟県刈羽郡高柳村。農家の次男坊として生を受けました。東京電力刈羽原発があるところです。田中角栄の選挙地盤で、「日本列島改造」の結果、村の道路はよくなりましたが、村に住む人は少なくなりました。私の家もなくなくなり、帰郷した時はジョンノビ村という施設に泊まります。冬は雪の深いところで、美雪の里、かやぶきの里です。

軍国少年が民主化に出会う

昭和8年生生まれの私が小学2年の時に太平洋戦争が始まり、小学6年の夏に終戦となりました。敗戦後はGHQの占領政策が6年間続きました。

その間に婦人参政権・農地改革・労働組合法・憲法制定・松川事件など、いろんな出来事がありました。「鬼畜米英」を刷り込まれた軍国少年は、修身の教科書に墨を塗り、個人主義とか民主主義を教えられ、天皇神話から解放されたのです。

県職員になり組合に加入

新制中学を出て、柏崎市でアルバ

イトをしながら定時制高校を卒業し、働きながら大学へ行こうと、東京に出てきました。月30000円位の下宿代に追われながら、住まいとアルバイトを転々としてました。

6カ月給付の職業訓練手当を頼りに職業訓練校に通い、無線通信士の資格を取りました。県立横須賀職業訓練校で無線科の講師として働いたあと、試験を受けて講師から雇員になりました。そして、杉田にあった独身寮に入居でき、暮らしも安定しました。

日本経済も発展し始め、神武景気に沸き、東海道新幹線の開通と、東京オリンピックが、ありま

二人あわせて一人前の人生

米山 東伊さん



米山さんのブログから



味としています。

共働き

1964年6月、組合活動で知り合った保田幸子と結婚しました。職員会館で実行委員会の皆さんに結婚式をやってもいい、皆さんの前で誓いの言葉を述べました。結婚当初から、私たちは共働きをすることを最優先にしています。

間もなく長男が生まれて、親元から離れた都会での二人の子育てが始まります。働き続けながら子育てをするパイオニアでした。働く仲間の共同保育に参加し、芦香院にできた職場保育園に通い、ある時は民間保育園に預けていました。共働きは、どちらが病気になる

も大事件です。何度か、親戚・友人の親などに頼み込んで一時保育をしてもらいました。長男と五つ違いで二人目の子ども生まれました。女の子でしたが、2歳の時に病死しました。結果として見れば、一番弱い子どもに共働きの無理をしわ寄せしてしまっただかと思ひ悩み、共働きは辛いものだと思います。

男女同権

共働きは必然的に男女同権になります。二人とも地方公務員で、制度的には恵まれた職場環境でした。それでも男女同権を暮らしのなかであてはめると、習慣や感覚のずれがあり、喧嘩もあります。

電話で、「ご主人は」と聞かれた時、「この家には主人はいません」と返事をして、妻は暮らしのなかで男女同権を守っていました。

定年、暮らしと趣味と

二人の定年後は、自家菜園のある田舎暮らしを夢見ていたのに、結局は横須賀の西海岸の長井に住むことに。近頃は年金者組合のパソコン講師や、インターネット囲碁をします。妻が原水協の平和行進で北海道から東京まで歩いた時は、そのブログを校正してやりました。二人合わせて一人前の人生です。

技術革新、モールス通信からパソコンの時代へ

職業訓練所で働き始めたところに、トランジスタが発明されました。真空管式ラジオからトランジスタラジ

「神奈川県臨調」を考えよう

このままいけば「県」がなくなる

2013年度、14年度に1690億円の「財源不足」が生じ、義務的経費も支払い不能になる。これを回避するため、支出削減をしなければならぬとして、「神奈川県臨調」は県施設の原則「全廃」方針を打ち出し、県は来年度からの予算編成で実現しようとしています。「全廃」方針の対象になっているのは、県立学校、県警以外には例外はなく、文字どおり全部です。

なお、原則「全廃」の解釈としては、県民利用施設は市町村への移譲、独立採算、受益者負担、県の一般財源ゼロを原則とした存続も含む。出先機関は行政機関、同一庁舎への集約化、統合。試験研究機関は統合や独立行政法人化も含む、とされています。

市町村行政の中核担う 県補助金事業

県の市町村補助は、事業数で119件、24年度予算で385億円となっており、たとえば、相模原市は100件178億円が該当していま

す。

具体的な例としては、小児医療助成事業補助金(40億円)、重度障害者医療費給付補助事業、ひとり親家庭等家庭医療費助成事業補助金、民間保育所運営費補助(10億円)など、福祉関係が70%といわれています。これらは、市町村の単独事業は少なくなっているため、市町村事業のなかでの比重は高まっています。「県政の空洞化」と言われながら、結構、県は頑張ってきたのです。

(なお、政令市、中核市、一般市、町村などの規模による適用率や補助率などの差はあまりありません)。

県は、補助金の見直しは市町村との協議を通じて行うとしつつ、県が補助金をなくす場合は、市町村も当該事業を廃止するとし、市町村の財政難にもつげ込みながら事業の廃止・縮小を貫こうとしています。また、団体補助金では、保育など



「一帯」なターゲットに拡大された県民サービス。中心に駅西口の運動場も廃止された人

福祉法人への補助のほか、農林水産団体、中小企業団体、雇用労働団体に対する補助金があります。臨調方針に対し、県市長会・町村会などから、「県の制度見直しによって、都市の財源負担強化やサービス低下が懸念されている」とし、「一方的な負担強化を行うな」との要望を行っています。

根拠がない「県財政沈没論」もしかすると県は「財源超過団体」になるかも

黒岩知事は、「このままいけば神奈川県財政は沈没する」と宣伝していますが、これは真つ赤なウソです。消費税増税が(残念ながら)実施され、地方消費税交付金や地方交付税が増額されれば、「財源不足」どころか、財源超過、地方交付税の不交付団体化さえ考えられます。

ねらいは「成長エンジンの起動」ーインベスト神奈川の拡大も

黒岩知事のねらいは、赤字の解消ではなく、総合計画「神奈川گران

ドデザイン」に盛り込まれた、「競争力の高い産業の育成」⇨エネルギー産業、医療・医薬品・医療機器開発やそのための企業の国際化支援などに振り向けていくことにあると思われる。

神奈川県から神奈川県へー県でなくなる神奈川

今回の臨調は、これまでの「県政リストラ」の継続ではありません。黒岩知事が提起している「神奈川県」構想は、今の県から従来型の福祉・中小企業・地域経済・産業振興、農林水産業振興といった「古い」業務を一掃し、カラにしたうえで、神奈川県を道州制の「特区」としていこうというものです。

県職員として積み上げられてきた様々な事業、施設などが廃止され、更地として売却されようとしています。知事部局の職員の6割を占める出先機関が、ゆくゆくは廃止されようとしています。

どのように思われますか? 元職員仲間や学習会などを行い、現役の職員とも意見交換をしながら、激励しあうのもいいのではないかと私は思うのですが。

(9月記・小畑 一・こだま会会員 / 神奈川自治体問題研究所役員)

高齢者の知恵と経験 を活かし暮らしやすい 社会の実現を

全国自治体退職者会連絡会第15回定期総会

消費増税ノ。原発ゼロへ

全国自治体退職者会連絡会の第15回定期総会が、自治労連定期大会の事前会議として8月25日、愛媛県松山市で開催されました。参加者は28退職者会から45人。こだま会からは、全国連絡会の事務局次長を担っている加藤利秋さんと私の2人の参加となりました。



こだま会のとりにくみを報告する加瀬文隆さん

城田会長は、「野田政権が公約破りに加えて、消費増税を民・自・公三党の密室談合で、国民も国会も無視して強行可決したことは許せない。退職者会も高齢者の知恵と経験を活かし、生活を守り、暮らしやすい社会の実現をめざし奮闘しよう」と訴えました。

全体で10人が発言し、各県の活動報告や原発反対の運動、大阪維新の会の攻撃に対するとりくみや本部への要望などが出されました。私も、『こだま会報』(総会特集号)を配布するとともに、「神奈川県フィルの不当労働行為・解雇撤回闘争への支援要請と、神奈川県臨調攻撃に対するとりくみ」について発言しました。

討論では、被災地岩手から、「がれき処理を含め復旧・復興は緒に就いたばかり。早く仮設住宅から出たいとの声を、見通しがないのでつらい思いで聞いている。野田首相は『命をかける』を繰り返しているが、被災地の復旧・復興にこそ命をかけてほしい」との発言がありました。

方針では、「医療・介護・年金の充実を。消費増税は許さない」「憲法9条・民主主義を守り、平和で輝きのある高齢社会を目指す」「核兵器廃絶・原発ゼロ」を採択しました。また、全国連絡会役員として当会の加藤利秋さんが事務局次長に再任されました。(加瀬文隆)

神奈川県フィル
ハーモニー
管弦楽団

杉本さん・布施木さんの解雇撤回へ

さる4月11日、神奈川県内唯一のプロオーケストラである神奈川県フィルハーモニー管弦楽団が、神奈川県職労連組合員の杉本さん、布施木さんのもとに突然、解雇通知を送りつけるという事件が起きました。

解雇になった杉本さん、布施木さんは、神奈川県職労連を構成す

る三つの労働組合のうちのひとつ、第3セクター職員などで構成する公務公共一般労働組合の副委員長(杉本さん)、執行委員(布施木さん)として、労使交渉の窓口となつて楽員の要求を前進させてきた人たちです。

楽団当局は、職場の労働条件改善のために運動してきた組合員を



横浜地裁の前での宣伝行動を終えて

嫌悪し、あれこれと口実を設け解雇したのです。7月4日には二人を励まし、支援の輪を広げるため、「杉本さん・布施木さんの解雇撤回させ、神奈川県フィルを良くする会」を結成。解雇

撤回を求めて地位確認と賃金仮払いの仮処分を横浜地方裁判所に申請しました。こだま会には、会への団体加盟や個人加盟、署名などにご協力いただき、ありがとうございます。引き続き、二人を職場に戻し、神奈川県を民主的に県民の宝となるような楽団にしていくために、裁判傍聴や署名、会への入会(個人会員一口1000円)をお願いします。(蓮池幸雄)



横浜市従会館で開かれた第21回定期総会

神奈川県自治労連退職者会 第21回定期総会

手をつなごう 年金・医療・福祉 の充実をめざして

神奈川県自治労連退職者会は10月17日、横浜市従会館で第21回定期総会を開き、2012年度の活動方針や新役員体制を確立。神奈川県自治労連

の菅野昌子委員長から連帯のあいさつをいただき、元氣よく運動をスタートさせました。

開会にあたり、会長の加瀬文隆さんは、「生活保護バッシング」を例に、「世代間負担の公平化の名のもとに、若者と高齢者が対立させられている」「安心した年金制度の実現は、若い人のためでもある。力を合わせていこう」と呼びかけました。

第26回

日本高齢者 大会 in 高松

「考えよう、いのち・くらし・憲法を守る国づくりをめざし、一人ぼっちの高齢者をなくそう」をテーマに、第26回日本高齢者大会が10月10日と11日、香川県高松市で開かれ、のべ5100人が参加。1日目は、学習講座や分科会など。私は、相野谷安孝氏(中央社会保障推進協議会事務局長)の講演「社会保障と税の一体改革とは何か、高齢者の暮らしはどうなる」を聞きました。

◎相野谷安孝氏の講演から◎

野田首相は8月10日、社会保障を「恩恵」にねじまげ、繰り返し「社会保障のため」と詭弁をろうし、「決断する政治」と開き直り、民主・市民・公明の「3党合意」で消費税増

各議案提案後、質疑討論。参加者からは、年金制度の統合問題や最低年金制度、神奈川県自治体学校のとりくみ、こだま会からはホームページの充実についてなどの発言があり、運動を補強しました。年金・医療・福祉制度の充実や、平和のとりくみ、予算、新役員など大きな拍手で確認しました。

●新4役紹介(敬称略)

(鳥海敏雄)

会長・加瀬文隆(県) / 副会長・森田謙一(横浜)・内田次敏(鎌倉) / 事務局次長・高須昌和(横浜) / 事務局次長・青沼慶祐(県)

〈訂正とお詫び〉

前号(8月15日号)の2面下段の森田謙一さんのあいさつのなかにある「：僕は将来、観光や自然に優しい：」を、「：僕は将来、環境や自然に優しい：」に訂正します。

いのち・くらし・憲法を守るろう



税法と社会保障改革推進法を強行可決した。「推進法」の内容は、社会保障制度とは似て非なるもので、いわば「社会保障障解体法」ともいうべきもの。「消費税は社会保障のため」という嘘も明白になった。

「推進法」の最大の狙いは公費削減

目的は憲法25条の棚上げ、国の責任放棄と公費負担の徹底削減、生活の「自立・自助・自己責任」原則。「病气や老後の備えは、自己責任で行い、国に頼るな」というもので、あえて言えば「民間保険の勧め」だ。

たたかいはこれから

「消費税に頼らなくても、社会保障の充実が可能」「憲法にもとづく応能負担の原則で、税制と社会保障の充実は可能」の声を広げていくことが重要。廃止への展望は充分ある。2014年4月からの実施までに必ず衆・参両院の選挙があり、増税に反対する勢力が多数を占めれば、増税をしない判断をすることになる。消費税増税廃止法をつくる勢力を多数派にする運動を作り上げることが重要だ。

* * *

高齢者の怒りを集め、憲法25条が活きる社会保障制度の再構築にむけて運動を強めましょう。

(辻村 博)

絵手紙

奥津弘久さんの作品



はがき絵

三井光子さんの作品



タケちゃんの料理教室 ③

エノキ茸と柿のナムス



- 材料 (作りやすい量)
エノキ茸 (1パック)・種なし柿 (1個)

●調味料

砂糖/酢 (好みで)

●作り方

- ①エノキ茸は石づきを切り取り、2分の1の長さに切り、細かくほぐし、さっと湯通しをし、ザルに入れておく。
- ②柿は皮をむき、2~3ミリの千切りにする。
- ③甘酢をつくり、①②を入れて、味をなじませる。



(飯塚武弘)

編集 後記

本紙は、今年度から発行月を8月・11月・2月・5月と、文字通り「季刊紙」に変更。皆さんのご協力で、来年の5月号は100号を迎えます。このままの過去・現在・未来を見据える企画を準備しています。

〈鳥〉

映画随想 10

今年、メジャー映画会社として最も古い日活が創立百年を迎えた。

日活は日本活動写真株式会社として、大正元年9月に設立された。それまでの映画は歌舞伎俳優の舞台の写実や事件の短い再現劇で、当時の知識人や洗練された趣味を持つ大人たちからは低俗文化だと非難の的であった。しかし日活は歌舞伎俳優の尾上松之助の剣劇映画を量産し、映画の持つ躍動感を強調し、大衆の支持を集めた。

昭和に入ると、若い野心的で個性的な監督たちが競って異色作を発表する。時代劇では伊藤大輔、現代劇では阿部豊、そして溝口健二である。彼らは関東大震災や昭和初期の恐慌を受けた人々の代弁者ともなり、社会性の強いテーマを取り上げ、世に問うた。時代劇の『忠次旅日記』『下郎』、現代劇の『都会交響楽』『生ける人形』等である。なかでも溝口健二の『都会交響楽』は傑出した作品であった。貧富の差、欺瞞と誠実の差を対照的に描き、社会の矛盾に対する義憤を訴えた作品で、当然の事ながら検閲で多くの部分を改訂、削除を受けたが、プロレタリア映画の代表的作品であった。このような作品は大

日活百年

手他社にはなく、日活の面目躍如であった。

田中一男

『五人の斥候兵』『土』である。監督は内田吐夢、田坂具隆。溝口に続く世代の監督で、日本映画の骨太のリアリズムを確立した。

しかし、日中戦争、太平洋戦争時では映画会社は日本軍に屈服した。日活のみならず、松竹・東宝などこぞって右傾化した。軍国映画時代の到来だ。しかし、

戦後アメリカにより上映を禁止された田坂具隆の『土と兵隊』は、現在の視点から見ると幾分違って見える。兵隊とはただひたすら歩くものだという主張と画面には、反戦の気配すら感じられる。類をみない緊張感で溢れる傑作である。

戦後の日活は、長く不調に苦しんだ。戦前の黄金期をしのご勢いを得るには、昭和30年代の石原裕次郎と吉永小百合の登場まで待たねばならない。

【京橋の国立フィルムセンターでは「日活映画の100年」と題し、11月6日から2月3日まで、69本の作品を連続上映する。詳細はフィルムセンターのホームページ参照】

会報No.98
2012.11.15

編集・発行
神奈川県職労連退職者こだま会
発行人 加瀬 文隆

〒231-8588
横浜市中区日本大通り1
県庁本庁舎6階

TEL 045-212-3179 (代表)
FAX 045-212-3178 (代表)
URL http://kodamakai.sakura.ne.jp/

Eメールアドレス kodama@kensyokuro.ne.jp